

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	小山町		指定	1
課題タイトル	人が訪れ、消費が拡大する観光交流の振興			

課題の概要(背景や理由等)	<p>金太郎生誕の地である小山町は、世界文化遺産の富士山やF1が開催された富士スピードウェイ、11箇所のゴルフ場等の観光施設に加え、水と緑豊かな自然環境に恵まれている。</p> <p>首都圏から90分の立地を活かし、工業団地、住宅団地、複合観光施設、宿泊施設等を整備する「三来拠点事業」を進めている。東名高速道路足柄SAの足柄スマートICや、今後開通する新東名高速道路(仮称)小山PAのスマートICの設置計画があり、<u>拡大が想定される来訪者の受入態勢の整備が喫緊の課題となっている。</u></p> <p>現在、観光振興計画を計画的に進めるためのアクションプラン策定や、観光庁が推奨する日本版DMO候補法人の登録による観光地経営の組織づくりに取り組んでいる。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>小山町観光振興計画の基本目標である、「小山町へおいで！世界から」観光交流500万人の実現に向けた調査・研究及び戦略的な事業展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の掘り起こし ・富士山観光事業 ・自転車を活用したまちづくり ・ゴルフ場との連携、活用 ・農林業体験、農家民泊、教育旅行等の着地型旅行商品の造成・販売
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・小山町観光協会 ・小山町商工会 ・Team-SKY研究所(調査・研究機関) ・観光事業者 等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提供(総合計画、観光振興計画 等) ・現地案内 ・関係団体の紹介 ・会議室の貸与 等

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	経営学部
ゼミ(担当教員)	大久保 あかね教授	ゼミ連絡先 E-mail	(0545)36-1133 okubo@fuji-tokoha-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商工観光課 課長補佐
電話番号	(0550)76-6114
E-mail	kankou@fuji-oyama.jp
28年度担当者	湯山 浩二

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	裾野市		指定	2
課題タイトル	裾野スタイルで暮らせるコンパクトシティの実現に向けて			

課題の概要(背景や理由等)	当市は昭和30年代から企業の立地が進み人口が増加したことにより、市域を南北に走るJR御殿場線沿いに住宅建設が進み、やがて郊外にも住宅開発が拡散した。しかし、平成22年を境に人口減少に転じたことで、これまでの人口増を背景とした民間開発主体のまちづくりから、人々の生活利便性の向上や行政コストの効率化など、裾野市らしい豊かな住まい方の実現(=居住空間の創出)に向けて、都市計画マスタープラン(H27.4策定)で設定するゾーンごとの拠点にあるべき機能を整理した、拠点連携型都市構造へとシフトしていく必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	拠点連携型都市構造を実現するためには、ゾーンごとの拠点のあり方について、まちの持続可能性と人々の生活の質の豊かさが両立するレベルで市民参画型の合意形成が必要である。そのため、市街地や既存集落など、それぞれの特色を活かした地域づくりを考え、市内全体での裾野市らしい田園未来都市づくりに繋げていきたい。学生には、地域住民、事業者、病院など公共機関、行政と対話しながら、長期的な視点に立った各地域の在り方について、魅力的で裾野市らしい暮らし・生活・まちづくりのイメージを提案してもらいたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・裾野市地域公共交通活性化協議会 ・立地適正化計画策定庁内検討委員会 ・(仮称)都市再生協議会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度裾野市集約都市形成支援事業報告書の提供 ・ワークショップ・インタビューの開催支援(関係者・会場の調整等)

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画政策課
電話番号	055-995-1804
E-mail	kikaku@city.susono.shizuoka.jp
28年度担当者	中村健児

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	三島市		指定	3
課題タイトル	「三島の水」の商品化及び販路開拓マーケティング戦略策定			

課題の概要(背景や理由等)	三島市の水道事業は、平成7年度から続く水需要の減少により、平成26, 27年度には2年連続の赤字決算となり、水道事業経営が非常に厳しい状況にある。水需要の減少は少子高齢社会や人口減少の影響を大きく受け、今後増加を見込むことが極めて困難であることから、新たな需要を開拓するためペットボトル等による水の販売により収益向上につながる事業の実施を検討している。ご当地の水をPRした通常のペットボトル飲料では、ナショナルブランドのミネラルウォーターのブランド力や価格と競合できないことから、学生の感性による「三島の水」にまつわるストーリーを創造し、付加価値を生み出す等のマーケティングを立案し、毎年増加している観光客や市民等を対象に水道水以外の「三島の水」の販売の可能性を探りたい。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・水の都三島にふさわしい学生の感性・思考・論理による斬新な付加価値の創造を期待 ・三島の歴史・文化・風土等に因んだ「三島の水」のブランド及びストーリー作り ・市民や観光客が購入したくなる付加価値の創造 ・パッケージデザイン ・SNSなどによる情報発信
情報収集や意見交換等で連携する団体等	必要に応じて <ul style="list-style-type: none"> ・三島市観光協会 ・市内で活動する青年団体「三島若者元気塾」 ・市内のボランティアガイド団体「ふるさとガイドの会」等を想定
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市水道施設の見学、原水の試飲 ・本市水道水の約半分の供給源となっている柿田川水源の視察 ・本市職員による歴史・文化・施設の案内 ・市内観光施設の案内(三島スカイウォーク、伊豆フルーツパーク、三嶋大社、市立公園楽寿園等)

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	三島市 上下水道部 水道課
電話番号	055-983-2657
E-mail	suidou@city.mishima.shizuoka.jp
28年度担当者	石田雅男

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	三島市		指定	4
課題タイトル	マスコットキャラクターを活用したシティプロモーションの効果と今後の在り方についての検証			

課題の概要(背景や理由等)	<p>当市では市制70周年を記念してマスコットキャラクター「みしまるくん・みしまるこちゃん」が誕生、その後全国的なゆるキャラ人気や全国放送のドラマ出演などにより一定の知名度をあげ、市のPRに貢献してきた。</p> <p>しかし、ゆるキャラも飽和状態を迎え、これまでの活動に対する評価と今後のシティプロモーションを趣旨としたゆるキャラの活動の在り方について、提言をいただきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な自治体のゆるキャラの活動実態についての調査。 ・ゆるキャラを活用したイベントへの参加、企画、またその成果(効果)についての検証。 ・今後の活動の在り方についての提言。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・三島市観光協会 ・日本大学、順天堂大学学生サークル
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	調査に必要な情報提供、相談、他市町への調査における支援など

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	三島市 企画戦略部 政策企画課 政策推進係
電話番号	055-983-2616
E-mail	seisaku@city.mishima.shizuoka.jp
28年度担当者	瓜島 史剛

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	沼津市		指定	5
課題タイトル	アニメの舞台となった地域への波及効果と課題			

課題の概要(背景や理由等)	本市は、平成22年度より、フィルムコミッション事業を官民協同で取り組んでおり、様々な映像作品の舞台となっている。 現在では、人気アニメ作品「ラブライブ！サンシャイン!!」の舞台となり、多くのファンが本市を訪れているとともに、市内の民間店舗等でも様々な企画を立ち上げ、訪れたファンに楽しんでもらうための取組みを実施しています。 今回は、作品がもたらした地域への波及効果や課題を調査したい。
希望する調査研究内容や期待すること	作品がもたらした経済効果や市民への作品の浸透度等を把握することにより、次の施策の参考としたい。 また、同様に多くのファンが訪れていることに対しての課題を浮き彫りにして、解決していきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	自治会、三の浦総合案内所、駿河湾沼津FC『ハリプロ映像協会』、三津旅館組合等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介、宿泊等施設の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	沼津市役所 企画部 ぬまづの宝推進課 シティプロモーション係
電話番号	055-934-4811
E-mail	takara@city.numazu.lg.jp
28年度担当者	國澤 賢太郎

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆市		指定	6
課題タイトル	天城湯ヶ島地区が滞在型観光地になるためには			

課題の概要(背景や理由等)	天城湯ヶ島地区は、浄蓮の滝や旧天城トンネルなど全国的に知名度の高い観光スポットを有しているが、観光客に対して行ったアンケート調査で、こういった天城湯ヶ島地区を観光した観光客が、湯ヶ島温泉などの地元の旅館・ホテルに滞在せず、通過地となっているため、波及効果が限定的になっていることが分かった。
希望する調査研究内容や期待すること	○天城湯ヶ島地区の観光スポットから湯ヶ島温泉への動線の整備、またキャンペーンやプロモーションのご提案 ○地元旅館へ滞在しない理由の調査及び研究
情報収集や意見交換等で連携する団体等	○伊豆市産業振興協議会 ○伊豆市観光協会 ○伊豆市役所 ○旅行会社等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	○会議室の貸与 ○現地調査の手配 ○関連団体の紹介 ○過去調査データの提供

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光商工課 DMO推進室
電話番号	0558-72-7007
E-mail	dmo@city.izu.shizuoka.jp
28年度担当者	山下 芳之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆市		指定	7
課題タイトル	観光業(旅館・ホテル)を魅力的な職場にするには			

課題の概要(背景や理由等)	景気回復や東京オリンピック・パラリンピック開催決定など、市内への観光客が増加するチャンスを迎えているが、市内の有効求人倍率が飲食物調理:6.50倍、接客・給仕:13.85倍(平成29年1月ハローワーク三島調べ)と観光業に関連する職種の倍率が非常に高く、人材不足が深刻である。増加する観光客に対して、施設ではなく人材の理由で受け入れのパイが縮小しているというギャップが大きな課題となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	<input type="checkbox"/> 現在の働く場所として観光業の問題点の調査およびその改善策のご提案 <input type="checkbox"/> 観光業の生産性向上への施策のご提案 <input type="checkbox"/> 観光業の人材不足解消への施策のご提案
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<input type="checkbox"/> 伊豆市産業振興協議会 <input type="checkbox"/> 伊豆市観光協会 <input type="checkbox"/> 伊豆市役所 <input type="checkbox"/> 修善寺温泉旅館協同組合 <input type="checkbox"/> 土肥温泉旅館協同組合 <input type="checkbox"/> 市内旅館・ホテル等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<input type="checkbox"/> 会議室の貸与 <input type="checkbox"/> 現地調査の手配 <input type="checkbox"/> 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光商工課 DMO推進室
電話番号	0558-72-7007
E-mail	dmo@city.izu.shizuoka.jp
28年度担当者	山下 芳之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆市		指定	8
課題タイトル	若年層に向けた観光PR(メディアマーケティング)			

課題の概要(背景や理由等)	高度情報社会を迎えて、観光PRにおいて、チラシやテレビといったマスメディアだけでなく、web(まとめサイト等)やSNSといったインタラクティブメディアも観光客の大きな情報源となり、チャンネルが多様化している。ただ、市では豊富な観光コンテンツに対し、メディアのプランニングができておらず、とりわけ、若年層が利用するインタラクティブメディアにおいては、市内向け、インバウンド向けのSNSアカウントはあるが効果測定や観光客が情報を拡散していく取り組みができていない。
希望する調査研究内容や期待すること	<input type="checkbox"/> 大学生の視点から若年層が情報を得やすいメディアプロモーションのご提案 <input type="checkbox"/> 現在ある観光コンテンツや情報を拡散したくなるような施策のご提案 <input type="checkbox"/> メディアマーケティング先進自治体との比較
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<input type="checkbox"/> 伊豆市産業振興協議会 <input type="checkbox"/> 伊豆市観光協会 <input type="checkbox"/> 伊豆市役所 <input type="checkbox"/> 市内観光施設
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<input type="checkbox"/> 会議室の貸与 <input type="checkbox"/> 現地調査の手配 <input type="checkbox"/> 関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光商工課 DMO推進室
電話番号	0558-72-7007
E-mail	dmo@city.izu.shizuoka.jp
28年度担当者	山下 芳之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士市		指定	9
課題タイトル	富士市個別処理区域における浄化槽整備と持続可能な管理手法への調査と提言			

課題の概要(背景や理由等)	<p>富士市では、生活排水処理は公共下水道(集合処理)や浄化槽(個別処理)等の整備手法を組み合わせ対応するシビルミニマムと捉え、各処理施設の整備を進めているところ。現在、浄化槽区域における施策としては、くみ取り便槽や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換する際の補助制度と合併処理浄化槽を維持管理する際の補助制度を設け、生活雑排水の適正処理と持続的な維持管理を支援している。</p> <p>しかしながら、高齢化、核家族化、低所得者、既水洗化など様々な理由から、合併処理浄化槽への転換意欲が低下するとともに、適正管理についても継続できない状況が発生し始めている。そのため、浄化槽整備推進のための対策が必要となっている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>この課題解決のため、各世帯における浄化槽設置場所(地質)や世帯構成(人数、年齢等)、住民意向(ニーズ)等の把握により、効果的・持続的な浄化槽整備・維持管理手法について提言を期待する。</p> <p>【フィールド調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地・家屋状況及び住民意向調査(在宅世帯については聞き取り調査等を行い、浄化槽整備・維持管理に関して考慮すべき項目を整理する) <p>【文献調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地質調査(岩盤、湧水の発生予測を立て、施工難易度を分類する) ・世帯状況調査(人数、高齢化状況、住宅築年数等を調べ、有効な転換施策について提言を行う)
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地区自治会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地区の自治会へのサポート(調整、案内など) ・関係資料、データの提供 ・まちづくりセンター、市役所などの会議室の確保

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	社会環境学部
ゼミ(担当教員)	小川 浩	ゼミ連絡先 E-mail	ogawah@fj.tokoha-u.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	上下水道部生活排水対策課
電話番号	0545-55-2853
E-mail	seikatuhaisui@div.city.fuji.shizuoka.jp
28年度担当者	統括主幹 石川 浩之

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士市		指定	10
課題タイトル	富士山女子駅伝の番組視聴率向上のための調査及び提言			

課題の概要(背景や理由等)	<p>富士山の世界遺産登録を記念して、2013年から富士市・富士宮市で開催している富士山女子駅伝は、フジテレビ系列全国27局で放送され、2014年までは12月23日開催で録画中継だったが、2015年からは12月30日開催で生中継となっている。</p> <p>本市としては、富士山女子駅伝が「富士山のふもと 富士市」を全国に発信できる絶好の機会と捉え、全国平均で番組視聴率10%を平成32年度の目標としているが、2013年大会の5%から年々低下し、2016年大会が4.2%だった。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>富士山女子駅伝の番組視聴率を向上させるため、アンケート調査及び取組の提言を希望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の学生を対象としたアンケート調査を実施し、富士山女子駅伝に対する認知度や関心度などの結果の分析及び考察 ・結果分析及び考察をもとに視聴率向上に繋がる取組の提言
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士山女子駅伝実行委員会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与 関連団体等の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	スポーツ振興課
電話番号	0545-55-2876
E-mail	si-sports@div.city.fuji.shizuoka.jp
28年度担当者	小林 広幸

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士市		指定	11
課題タイトル	若い世代に対する地域参画総量調査とブランドメッセージを活用したワークショップ			

課題の概要(背景や理由等)	本市は、市制50周年の節目に、新たな50年に向け、目指すべきまちの姿を一言で語り、市民と共有するため、富士市ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり富士市」を策定した。このブランドメッセージの推進により、地域参画総量を向上させ、まちづくりに参画する人やまちの魅力を伝える人、まちに感謝する人を増やすことを目指しており、未来を担う若い世代の現状を把握し、まちへの“認知”と“信頼”を獲得する必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	①若い世代を対象に“富士市”の「まちづくり活動に参画したいか」「まちの魅力を推奨(発信)したいか」「まちや、まちづくり活動をしている人に感謝したいか」という“地域参画総量調査”を実施したい。(街頭アンケートや団体への依頼など手法は未定) ②市が実施する「富士市ブランドメッセージワークショップ」の運営補助をお願いしたい。ワークショップの前後で地域参画総量調査を行い、前後のデータを分析することで、ワークショップ効果を測定し、有効な推進手法の検討に役立たせたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	特になし
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与、ワークショップの講師・ファシリテーターの派遣など

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	富士市産業経済部 観光課 富士山・シティプロモーション推進室
電話番号	0545-55-2958
E-mail	sy-kankou@div.city.fuji.shizuoka.jp
28年度担当者	江村 輝彦

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡市		指定	12
課題タイトル	登呂遺跡・登呂博物館の魅力の新たな活用への提案			

課題の概要(背景や理由等)	静岡市が第3次総合計画で目指す都市像として『歴史文化のまち』がある。登呂遺跡・博物館が果たすべき役割として、今までの教育的側面や文化的側面に加え、観光的側面も視野に入れた遺跡・博物館の新たな魅力の発見や、それをどのように活用し発信していくかが課題になっている。
希望する調査研究内容や期待すること	①登呂遺跡・登呂博物館の利用者に対する調査(アンケートなど) ②遺跡・博物館の魅力の分析・創出 ③遺跡・博物館の新しい活用についての提案
情報収集や意見交換等で連携する団体等	教育機関(児童・生徒を含む。) 観光団体 健康に関連した団体 老人会 近隣住民
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	登呂博物館1階交流ホールを打合せスペースとして使用可

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	文化財課 登呂博物館
電話番号	054-285-0476
E-mail	suzuki_cca@city.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	鈴木匡

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡市		指定	13
課題タイトル	公営住宅大規模団地の活性化の方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	<p>現在、静岡市内には安倍口団地や清水折戸団地等「大規模団地」と呼ばれる公営住宅団地が複数存在します。これら大規模団地について、施設の老朽化や入居者の高齢化などによる「団地自治機能の低下」や「コミュニティの活力低下」などが現在課題となっている、又は今後課題となることが懸念されます。</p> <p>そこで、これらの大規模団地について、地域と共生しながら活性化をする方策について、調査研究課題とさせていただきます。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・団地内外の住民、及び周辺関係者と良好な環境を生み出せる仕組みづくり。 ・地域との共生について、団地として何ができるか等。 ・ハード整備、ソフト整備に限らず、これからの時代のニーズに合わせた公営住宅団地づくり。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県(公営住宅課) ・静岡県住宅供給公社 ・公益財団法人 静岡市まちづくり公社 ・団地自治会 ・周辺自治会 ・市民団体(NPO法人等)
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室貸与 ・関連団体との連絡、調整 ・情報提供

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	住宅政策課 企画係
電話番号	054-221-1285
E-mail	juutaku@city.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	白井

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡市		指定	14
課題タイトル	子供たちに地域の歴史を楽しく伝えていく講座・イベントへの取り組み			

課題の概要(背景や理由等)	歴史文化課で建設を進めている歴史文化施設に課せられている役割の一つが、未来を担う子供たちに地域(静岡市)の歴史を伝え、知ってもらおうということである。しかし、生活に身近であり、実験などアプローチ方法が多様な科学的な分野とは異なり、学習をしない限り接する機会が無く、小学6年生で初めて学習(授業)として触れることになる歴史的な分野の魅力を紹介することは(科学的分野と比較すると)難易度が高くなる。とりわけ、講座・イベントといった手段は、一般的には主となるアプローチの方法といえるが、それを歴史的な分野に適用した場合、子供たちの年齢が下がるにつれて難しくなっていく。講座・イベントというアプローチの仕方を有効活用していくために、学生たちの視点から多様な切り口で、子供たちに楽しんでもらえるアイデアを求めたい。
希望する調査研究内容や期待すること	学校で学年単位で行われる「学活」の時間や、イベント会場のブース等で、学生たちによる企画を実際に子供たちの前で実施してもらい、反応を調査。その結果を受けて、改善を重ねていき、より良いアプローチ方法を模索していくこと。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	市内小中学校
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室貸与

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	歴史文化課 歴史文化施設整備係
電話番号	054-221-1569
E-mail	rekibun@city.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	水野伍貴

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	焼津市		指定	15
課題タイトル	小泉八雲を活かした焼津市の活性化(地域デザイン)			

課題の概要(背景や理由等)	焼津小泉八雲記念館は、文学館というイメージから文学の関心のない方にとっては敬遠しがちな施設と思われる。 晩年6回の夏を焼津で過ごし、焼津にゆかりの深い文学者小泉八雲の文学を、地域資源(観光資源)として捉え、記念館を始め焼津市へ訪れる人の増加を図り、市の活性化に繋げたい。
希望する調査研究内容や期待すること	小泉八雲と焼津市を結び付けた新しい地域デザインの提案 大学生のアイデアを活かした八雲関連商品の提案、八雲散策コースの企画、八雲滞在の家があった浜通り(通称八雲通り)での朗読会など 平成29年度は、小泉八雲記念館開館10周年、八雲来焼120周年の節目の年でもあり、若者の感性を活かした市内外への情報発信を行い、焼津市を訪れる人の増加、地域の活性化を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	焼津市観光協会 小泉八雲顕彰会 NPO法人浜の会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	小泉八雲記念館多目的室の使用 八雲関係情報・資料の提供 朗読会等の連携・共催

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡県立大学	学部等	国際関係学部
ゼミ(担当教員)	細川光洋 ゼミ	ゼミ連絡先 E-mail	hosokawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	文化財課 小泉八雲記念館担当
電話番号	054-620-0022
E-mail	koizumiyakumo@city.yaizu.lg.jp
28年度担当者	仁科 雅喜

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	藤枝市		指定	16
課題タイトル	「ふじえだ・まちゼミ」の効果的な情報発信			

課題の概要(背景や理由等)	<p>モータリゼーションの進展や消費者ニーズの多様化による郊外型大型店の出店、通信販売の普及に伴い、商店街等の個店は厳しい状況下におかれており、個店ならではの個性やこだわり、専門性を消費者に伝える機会が少ないのが現状である。</p> <p>この課題解決の一助として、本市では、個店のファンづくりに資する「まちゼミ」を、商業者主体の「ふじえだ・まちゼミの会」と協力し、平成25年度より開催している。</p> <p>これまで、情報発信として、新聞折込や参加店、市役所、公民館等でのチラシ配布、更には、ブログやフェイスブックによるSNSを活用した周知を図ってきたところである。</p> <p>今後、更なるSNS等を活用し、特に若年層を中心とした情報発信の強化を図るため、より効果的な発信を進めるとともに、まちゼミを通じ、個店の魅力の更なる発信につなげていきたい。</p> <p>※まちゼミとは・・・</p> <p>お店の人が講師となって、プロならではの「コツ」や「知識」を無料(一部材料費のみ実費負担)で教えてくれる少人数制のミニ講座で、本市では、年2回(夏・冬)開催している。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>SNS等を活用した若年層向けの効果的な情報発信</p> <p>・学生による講座の取材を兼ねた、まちゼミのPRと個店の魅力発信</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>「ふじえだ・まちゼミの会」</p> <p>※本会は、商業者主体の会であり、小売業(酒屋)を経営する曾根克則氏が代表を務める。</p>
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>関連団体である「ふじえだ・まちゼミの会」との連絡調整や会議室の貸与</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	藤枝市産業振興部商業観光課商業係
電話番号	054-643-3078
E-mail	sho-kan@city.fujieda.shizuoka.jp
28年度担当者	青嶋和徳・杉本舞衣

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	藤枝市		指定	17
課題タイトル	岡部宿大旅籠柏屋の活性化について			

課題の概要(背景や理由等)	大旅籠柏屋は、平成12年にオープンし、岡部宿の歴史文化の発信と地域振興の拠点として、市と地域住民(岡部宿まちづくり協議会等)が運営を分担しながら協働で経営して来た。ここ数年、まちづくり協議会は会員減少や構成員の高齢化等により急激に組織力は衰退し、本年度を持って組織が解散することになった。そのため新たな運営パートナー見つけ、継続して運営できる体制づくりが急務である。また、協議会の解散により柏屋を通じて地域振興を担ってきた母体が無くなってしまいうので、今後地域との関わりをどのようにしていくかも課題となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	①課題解決と将来的な運営を考慮した施設の位置づけ、運営形態の再検討 ②柏屋と地域住民の関わりを再構築するための考え方・手法の提案 ③大旅籠柏屋・内野本陣史跡を活用した集客拡大に向けた施策の提案 ④大学、行政、地元団体、協力企業等の関係者によるワークショップの開催
情報収集や意見交換等で連携する団体等	岡部宿まちづくり協議会メンバー 企業組合 かしばや(物販) 有限会社 一祥庵(和食レストラン) 自治会、町内会 商工会
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	柏屋研修室 利用可能

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	街道・文化課 街道文化係
電話番号	054-643-3036
E-mail	bunka@city.fujieda.shizuoka.jp
28年度担当者	大石裕己

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	島田市		指定	18
課題タイトル	中心市街地活性化に向けた島田市の現状にあった方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	<p>島田市の中心市街地は、区画整理や大規模な再開発が予定されていない状況の中で、中心市街地の活性化に向けて、来年度に、平成30年度から平成34年度までの「中心市街地活性化基本計画」を策定する予定である。</p> <p>現在、リノベーションまちづくりの取組、中心市街地にあるおび通りの公園化による週末イベント「ざわざわ市」の開催、空きテナントへの公共施設整備(音楽レンタルスタジオ)など、少しずつ動きが出始めているが、まだ、活性化への道筋が見えない状況にある。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>大型ショッピングセンターや映画館の誘致など施設整備や誘致計画ではなく、現状の商店街、こども館(こどもの遊び場)、図書館などの既存環境を活かしながら、既に動き始めようとしているリノベーションまちづくりの取組やおび通りでの週末イベント「ざわざわ市」なども考慮した中心市街地に来たくなる、回遊したくなる、今の島田市の現状にあった方策の研究に期待したい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>島田市、島田商工会議所、島田市商店街連合会 (株)まちづくり島田、NPOクロスメディアしまだ、ソライロローカルデザイン</p>
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>会議室は市で用意可能。</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業観光部商工課
電話番号	0547-36-7164
E-mail	syoukou@city.shimada.lg.jp
28年度担当者	中村 広史

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	川根本町		指定	19
課題タイトル	木材を活用した地域創造			

課題の概要(背景や理由等)	平成27年度桑野山貯木場の払下げを受け、貯木場(土場)としての活用以外に、敷地内既存施設の貸出しを行い、ツーリズム事業体、木工加工事業者に施設の一部の使用を許可している。その他に、町内木材資源調査、製材機・木工加工機の整備を進め、町内の木材の利活用の推進を計画している。貯木場を中心に周辺整備も含め交流人口が増え、賑わいのある施設として整備を検討したい。
希望する調査研究内容や期待すること	木材加工を中心とした体験・癒し・起業など、施設の特性を活かした事業の調査、提案をいただきたい。 行政的視点ではなく、自分たちならこのような事業にチャレンジしたいという提案を期待します。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	森林組合おおいがわ 木の駅実行委員会 (一社)エコティかわね 前田工房(株) 前田佳則(井川メンパ)
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室・現地施設の利用提供。 町内関連団体・事業者の照会。

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業課林業室
電話番号	0547-56-2226
E-mail	sangyou@town.kawanehon.lg.jp
28年度担当者	池本 智安

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	川根本町		指定	20
課題タイトル	魅力あるグルメ(食)・土産・特産品で町の魅力アップ			

課題の概要(背景や理由等)	本町には川根茶ブランドがあるが、緑茶離れやリーフ茶からペットボトルへの需要変化などにより、消費の低迷を招いている。来訪者に購買意欲を高めるような本町ならではの特産品が無い。交流人口の増加に比例した商品の販売促進に繋がる、特産品を開拓し本町ならではのグルメ(食)と土産品を開発したい。
希望する調査研究内容や期待すること	・特産品の開発 ・地域ならではの食・土産品の開発 以上を可能にするための環境整備の提言 イメージや机上の考えの提言でなく現実的な成果を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	川根本町まちづくり観光協会 川根本町商工会 (一社)エコティかわね
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の利用提供。 町内関連団体等の紹介。

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商工観光課
電話番号	0547-58-7077
E-mail	syoko-kanko@town.kawanehon.lg.jp
28年度担当者	中村 隼人

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	掛川市		指定	21
課題タイトル	移住定住に繋がる掛川市ならではのシティプロモーション施策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	国勢調査によると掛川市の人口は、平成22年から平成27年にかけて1.5%の減少に転じており、今後も人口減少が危惧されている。そのような中、掛川市では平成28年4月からスタートした第2次総合計画の中で、シティプロモーションと連動した移住定住施策に本格的に取り組むこととしており、若い世代にとって魅力的なまちづくりや受入体制の整備及び情報発信が求められている。施策として、しごとや住宅等の生活情報をワンストップで提供する相談窓口の設置や、移住定住希望者に対して住宅を提供する「空き家バンク」を開設しているが、実績に結びついていない状況である。
希望する調査研究内容や期待すること	掛川市には他の市町にはない歴史や自然、茶文化や交通の利便性を有している。魅力的な地域資源を活かした効果的な施策展開や情報発信を行うことで、成果に繋がると考える。若者の視点で、掛川ならではの地域資源の魅力を発信し、それらを活かした効果的なシティプロモーションとは何が考えられるか調査研究をお願いしたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川市、掛川市教育委員会 その他、商工団体、農業団体等 29年度に設立を予定している官民協働のプロモーション組織(仮称)かけがわひろめ隊
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	各種統計の提供 関連団体、企業等への橋渡し 打合せ場所(市役所等)の提供 等

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画政策課地域創生戦略室経営戦略係
電話番号	0537-21-1127
E-mail	kikaku@city.kakegawa.shizuoka.jp
28年度担当者	竹内 翔

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	袋井市		指定	22
課題タイトル	若い人にとって魅力のあるまちづくりへの提言			

課題の概要(背景や理由等)	<p>平成27年国勢調査結果によると、袋井市は、高齢化率が県内で2番目に低く、若い人が比較的多いまちである。さらに、多くの自治体で人口が減少する中、本市はいまだ人口が微増している。しかしながら、独自調査の結果、袋井市に住んでいても、就職や結婚を機に市外へ転出する方が多いことが判明している。さらに今後、本市も例外なく人口減少が見込まれている。</p> <p>そこで、袋井市を若い人に魅力のあるまちにするために、ぜひ若い大学生の皆さんにご提言いただきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>国勢調査の結果や大学生へのアンケート調査により、本市の現状を取りまとめ、今後の取組についての提言を希望する。具体的には以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国勢調査の結果やその他統計資料などを利用し、本市の人口の現状をグラフや図でわかりやすく表現する。 ・大学生に対し、就職や結婚に関するアンケート調査を行い、結果をまとめる。 ・以上2点を考察した上で、若い人に魅力のあるまちづくりについての提言書を提出する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	袋井市役所職員(企画政策課など)
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室の貸与 ・国勢調査結果の資料や各種統計データ、その他関連資料の提供 ・助言等 <p>その他、可能な限り必要とする支援を行います。</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	袋井市企画財政部企画政策課企画係
電話番号	0538-44-3105
E-mail	kikaku@city.fukuroi.shizuoka.jp
28年度担当者	青山 晴香

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	浜松市		指定	23
課題タイトル	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究			

課題の概要(背景や理由等)	<p>浜松の中山間地域である天竜区佐久間町は、浦川歌舞伎や川合花の舞を始めとした民俗芸能等の文化とともに、かつて、海の幸、山の幸を運ぶ「塩の道」となった甲州街道(秋葉街道)が通り栄えていたが、近年は高齢化率及び高齢者のみ世帯率ともに50%を超え、商店の閉店も進み、過疎地域特有の課題を抱えているところである。</p> <p>この課題解決には、行政だけでは限界があり、若い人材や高度な知識を有する地域の大学の協力が不可欠である。</p> <p>とりわけ、静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科の船戸ゼミは、中山間地域の研究を専門に行っており、H25は春野地域、H26は龍山地域、H27は佐久間山香・城西地域、H28は佐久間佐久間地域においてフィールドワークを行い、浜松の中山間地域が抱える課題を調べ、調査報告会を通じて浜松市や地域住民へ課題のフィードバックをはじめ、課題解決に大いに寄与してきた。よって、引き続き佐久間町の調査を行っていただき、とくに次年度以降は佐久間町浦川地区における調査をお願いしたい。</p> <p>船戸ゼミによる年度を分けて実施している調査は、次年度以降(3年間の予定)に佐久間町浦川地区で行えば、佐久間地域の調査が完了する。地域課題は、地域によって異なるため、全地域の調査を行うことに意義があり、次年度以降も継続して実施してもらいたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>進行する過疎化を食い止めるためには、地域の個性や資源を理解し、地域の住民が主体となって、地域の課題解決や地域おこし活動を行うことが非常に重要である。とりわけ、大学生等がその取り組みに携わることは、都会の若者に地域への理解を促すとともに、地域にとっても、若者が地域に来ることによって生まれる活気や気付きも生じる。</p> <p>既に浜松の中山間地域について研究を進めている静岡文化芸術大学の船戸ゼミには、積極的に現場に入り、フィールドワークを通じて、地域住民や地元のNPOとともに、地域の課題解決に取り組み、佐久間地域の活性化に資する調査・研究を行っていただきたい。</p> <p>特に、春野地域や龍山地域とは異なる佐久間地域の課題の特性や、“歴史と民話の郷”と呼ばれる佐久間地域の豊富な伝統文化についても、研究対象として、新たな北遠地域の可能性が浮かび上がることを期待している。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市佐久間協働センター ・佐久間地区自治会連合会 ・浜松山里いきいき応援隊 ・地域づくり団体(地域のNPO法人等) など
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>市の市民協働・地域政策課や佐久間協働センターが、静岡文化芸術大学の船戸ゼミと佐久間の自治会や地域づくり団体(NPO法人など)との橋渡しを行うとともに、フィールドワークを行うにあたり、市民協働・地域政策課および佐久間協働センター職員、また市が委嘱する浜松山里いきいき応援隊が適宜サポートをすることで、円滑に調査・研究が行われるよう支援する。</p> <p>また、必要に応じ、協働センターの会議スペース等を無償貸与する。</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ(担当教員)	船戸修一	ゼミ連絡先 E-mail	s-funa@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民部 市民協働・地域政策課 中山間地域グループ
電話番号	053-457-2243
E-mail	shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp
28年度担当者	飯田 智也

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡県		指定	24
課題タイトル	川での遊び文化の回復・創造による人と川の良好な関係性の再構築について			

課題の概要(背景や理由等)	<p>県が管理する中小河川は、古くから流域住民の営みに深く関わってきた。また、地域の自然環境や景観形成など、現在でも住民の日常生活と深い関わりがある。一方で、河川愛護意識や防災意識の低下が危惧される背景には、社会環境の変化に伴う人と川の関わり希薄化が挙げられる。特に、川で遊ぶ子どもの姿を見ることは少なくなった。</p> <p>現在、県下で行われている川をフィールドとした遊びや体験活動等を対象にして、活動動機、継続の要因や波及効果等を調査し、河川流域や地域との連携への展開、人づくり、地域づくりへの発展の可能性を探る。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>国の河川審議会川に学ぶ小委員会は、平成10年に『「川に学ぶ」社会をめざして』の答申を出した。県管理河川でも、市民団体や行政による体験活動、環境教育等が行われて久しい。こうした活動は、様々な地域の財産を掘り起こすことが出来るため、それらが広く流域住民と共有されて住民等と連携した河川活動が継続的に実践されれば、河川文化の回復・創造が期待される。</p> <p>川の良い関係の再構築へ展開を見据え、遊びの舞台として日常的に利用される川の姿とその環境について、市民活動団体への聞きとりや流域住民への意識調査を実施して分析し、人が持続的に川に関与できる川づくりに資する提案を取りまとめる。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>対象河川で活動する市民環境団体 市民団体、県(河川管理者)と市の3者が協働で取り組む「リバーフレンドシップ制度」の締結団体 当該河川の位置する市の関係部局</p>
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>関連団体の紹介 対象河川(現場)視察 関係団体へのヒアリングなどの面談の日程調整</p>

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	交通基盤部 河川砂防局 河川企画課
電話番号	054-221-3029
E-mail	kasenki@pref.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	望月嘉徳

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	静岡県		指定	25
課題タイトル	販路に感動！白葉茶			

課題の概要(背景や理由等)	白葉茶とは、地域の特色を活かし、国や県支援により開発・事業化が進められたうまみ成分のアミノ酸含量が高いお茶。 平成24年から発売を開始したが、まだ周知は十分とはいえず、今後は若者を含めた、販路拡大・販売戦略の検討が課題となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	・白葉茶の周知・販路拡大 ・消費者がかごに入れレジに持ち込むまで、口にするまでの出口戦略の構築。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・静岡白葉茶ブランド推進協議会 ・公益財団法人静岡県産業振興財団 フーズ・サイエンスセンター ・お茶関連団体 ・県政記者クラブ
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与(フーズ・サイエンスセンター) ・関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	新産業集積課
電話番号	054-221-3588
E-mail	megumi1.ishii@pref.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	石井

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	公営住宅課		指定	26
課題タイトル	県営住宅における自治会活動やコミュニティ活動の活性化に関する実践的研究			

課題の概要(背景や理由等)	県営住宅は、県内に143団地約15,000戸ありますが、高齢者の割合が県平均を大きく上回る場所や、外国人の比率が高い場所などがあり、そのような団地においては、自治会活動やコミュニティ活動が停滞する場所があります。
希望する調査研究内容や期待すること	県営住宅における高齢者や外国人実態を踏まえ、必要な支援策を調査、分析するとともに、団地自治会や関係団体と連携して、自治会活動やコミュニティ活動の活性化や高齢者・外国人支援活動の実施などを求めます。 (高齢者と外国人のいずれかのみを対象とすることも構いません)
情報収集や意見交換等で連携する団体等	団地自治会、地元市町福祉部局、地域包括支援センター、地元市町の国際交流協会 など
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	実践的活動の場として、団地集会場や県営住宅の住戸を活用することが可能です。

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	くらし・環境部 建築住宅局 公営住宅課
電話番号	054-221-3087
E-mail	jutaku@pref.shizuoka.lg.jp
28年度担当者	勝又 宏幸

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	富士宮市		指定	27
課題タイトル	朝霧高原の魅力発信プロジェクト			

課題の概要(背景や理由等)	富士宮市北部に位置する朝霧高原は、ススキ草原や牧草地の広がる自然豊かな地域であり、また、キャンプやパラグライダーなどのアクティビティも豊富で県内外から観光客が訪れる場所となっている。 しかし、「朝霧高原＝富士宮市」のイメージにつながっておらず、魅力ある資源を十分に活かしきれしていない。
希望する調査研究内容や期待すること	朝霧高原にある地域資源の掘り起こしや富士宮市内の他の観光スポットを結ぶモデルルートの構築など、朝霧高原の魅力を富士宮市の魅力として発信していく手法について、若者目線での提案を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士宮市観光協会 富士宮商工会議所
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室等) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課 地域政策推進室
電話番号	0544-22-1215
E-mail	kikaku@city.fujinomiya.lg.jp
28年度担当者	佐野 龍貴

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	裾野市		指定	28
課題タイトル	プログラミング教育に先駆けた小中学生向けICT講座の開講			

課題の概要(背景や理由等)	国(文部科学省)では、次期学習指導要領の改訂に合わせ、プログラミング教育が、小学校では2020年から、中学校では2021年から必修化されることが示されている。そこで、希望する児童・生徒に対し、必修化されるまでの間に、ICTを活用したプログラミングに触れる機会を創出・増加させると共に、児童生徒のみならず市としてもプログラミング教育の素地を整えたい。
希望する調査研究内容や期待すること	小学校高学年の児童には簡単なプログラミング演習を、中学校の生徒に対しては授業より高いレベルでのプログラミング演習の講座を開催し、当年度だけでなく、2020年まで継続して開催できる仕組みやカリキュラムの提案・実施を希望する。また、本講座を受講したことで、将来の進学や就職先としてICT関係を希望する生徒が増えるような工夫のある講座内容を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のパソコン室内PC(40台程度) ・中学校インターネット回線100Mb

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	沼津工業高等専門学校	学部等	電子制御工学科
ゼミ(担当教員)	川上誠教授	ゼミ連絡先 E-mail	kawakami@numazu-ct.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画政策課
電話番号	055-995-1804
E-mail	kikaku@city.susono.shizuoka.jp
28年度担当者	渡邊彩

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆の国市		指定	29
課題タイトル	東京オリンピック・パラリンピック事前合宿地に求められるニーズとおもてなしについて			

課題の概要(背景や理由等)	東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿に、モンゴルの柔道選手団が伊豆の国市を訪れることになっている。合宿地として求められるニーズは何かがあるのか、又、市民のもつ「おもてなしの心」を伝えるために、伊豆の国市としてどのようなことが出来るのか調査を行いたい。 この機会を通じて市民との交流にもつなげていきたい。
希望する調査研究内容や期待すること	・モンゴル柔道選手団の合宿地に求めるニーズについての調査 ・他の事前合宿地でおこなわれている活動についての調査 ・伊豆の国市ならではのおもてなしの研究
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・伊豆の国市スポーツ振興課 ・伊豆の国市観光協会 ・伊豆の国市旅館組合 ・伊豆の国市商工会等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与、関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市長戦略部政策推進課政策推進係
電話番号	055-948-1413
E-mail	seisaku@city.izunokuni.shizuoka.jp
28年度担当者	江間萌香

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

市町名	伊豆の国市		指定	30
課題タイトル	モンゴル国と国際交流員サロールさんの紹介イベントの実施とその検証			

課題の概要(背景や理由等)	伊豆の国市では、モンゴル国ソングノハイラン区と友好都市協定を結んでいる。本市の政策戦略課に勤務する国際交流員のサロールトヤ・ハルパートルさんが、モンゴルの芸術や文化について、ラジオや各種教室を通じて市民にPRしているが、十分に認知されているとは言えない状況である。
希望する調査研究内容や期待すること	・モンゴルの芸術文化の調査 ・市民向けに、モンゴルの芸術や文化等を紹介するイベントを実施するとともに、その効果について検証する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・伊豆の国市友好都市交流協会等
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・会議室の貸与、関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市長戦略部政策推進課政策推進係
電話番号	055-948-1413
E-mail	seisaku@city.izunokuni.shizuoka.jp
28年度担当者	江間萌香

県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

第一次締切2月10日(金)、第二次締切3月7日(火)

市町名	伊豆の国市		指定	31
課題タイトル	モンゴルとの農業を通じた交流の提案・検証			

課題の概要(背景や理由等)	<p>モンゴルでは、10月末～4月あたりまで寒く、土地が凍ってしまうため農業を行うことが難しい。日本では、冬でも農業を行うことができ、特に伊豆の国市では冬がメインのイチゴの栽培を行っている。</p> <p>そのため、モンゴルで農業を行えない期間、伊豆の国市に人材提供をしてもらうことで伊豆の国市の農業労働力となっただけかわりに、日本の農業技術をモンゴルへ提供するという取組を進めていくための調査を行いたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国市の農業労働力のニーズ調査 ・他で同じような取組をどのように行っているかの調査
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミに対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室の貸与 他

既に協議や調整を行っているゼミがあり、そのゼミを希望する場合に記載してください。
(ただし、そのゼミが助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ(担当教員)		ゼミ連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	政策推進課
電話番号	055-948-1413
E-mail	seisaku@city.izunokuni.shizuoka.jp
28年度担当者	江間萌香